

配信日：2019年11月25日

こんにちは、岩井ファルマテックのメールマガジン【Iwai Pharma Tech通信】です！

「孫の手」という道具がありますが、分離技術における孫の手は、弊社のご提供する「膜分離設備」と言えます。

有用成分に対して「もっと濃縮したい」「もっと純度を高めたい」など、痒いところ(課題)に対して、弊社は最適な孫の手(膜分離設備)をご提供致します。

今回は特に痒いと多くのお声を頂く「溶剤系の膜処理設備」をご紹介します。

▼URL: 有機溶媒系、強酸・強アルカリ系における医薬品原料の濃縮・精製
<https://www.iwai-pt.co.jp/film-process/pharmaceuticals.html>

S、AS-Type 耐溶剤性			
Acetonitrile	S	Methanol	S
Ethyl acetate	S	Ethanol	S
2-Propanol	S	Hexane	S
Acetone	S	Tetrahydrofuran(THF)	S
Toluene	S	Dimethylformamide	S



有機溶媒系、強酸・強アルカリ系における医薬品原料の濃縮・精製

◆1:技術紹介

従来の有機膜では材質上、極性溶剤処理の設備導入はハードルが高いとされていました。しかし、溶剤に対する耐性が飛躍的に向上された膜の登場と、弊社の長年培ってきた技術力との融合で、従来では困難であった条件の処理でも膜分離で解決できるようになりました！

さらに当社では耐溶剤・耐熱・耐磨耗性を持ったセラミック膜設備等の設計・製作を行い、数多くの実績をあげております！

◆2:特徴

有機溶剤ではアセトニトリル、メタノール、トルエンなど、多くの物質に対して耐性を有します。また硫酸・硝酸・塩酸などの酸性溶剤のほか、苛性ソーダや苛性カリなどのアルカリ溶剤にも耐性を有します！耐溶媒有機膜の他に、セラミック材質から成る膜もございます。

セラミック膜は上記の耐溶剤性に加えて、高温高圧の条件にも対応可能で、更に膜分離の適応範囲を広げております！弊社の技術力は有機膜およびセラミック膜共に対応できますので、使用する溶剤にベストマッチする膜処理設備をご提供致します！

詳しくはこちらをクリックしてください。

孫の手だけでなく、猫の手も借りたい私ですが、今年もあと2カ月！頑張って乗り切りましょう！

▼お問い合わせはコチラから

<http://www.iwai-pt.co.jp/contact/>

● 「IPT通信」に掲載された記事又は画像を許可なく転載することを禁じます。

Copyright by IWAI PHARMATECH Co., Ltd. 2019



発行元 岩井ファルマテック株式会社メルマガチーム

岩井ファルマテック株式会社

〒144-0033 東京都大田区東糀谷3-17-10

TEL : 03-5737-7171

FAX : 03-5737-7172

<https://www.iwai-pt.co.jp/>